

序

1．報告書取りまとめの経緯

「ひろしま平和貢献構想」は、かつて原爆投下の惨禍から立ち上がり、「憎しみの連鎖を断ち切る」ことに成功した、広島復興の経験に基づき、広島発の平和貢献の理念を明らかにするとともに、これまで広島に蓄積された人材・技術・施設を活用した平和貢献に関するプロジェクトを構想するものである。

広島県では、平成13年度、総合研究開発機構（NIRA）との共同研究として、平和政策研究会を組織し、報告書「記憶から復興へ」を取りまとめた。本年度は、この研究成果を受け、財団法人日本国際問題研究所がワーキンググループ会議を、社団法人中国地方総合研究センターが平和政策推進ネットワーク会議をそれぞれ設置・開催し、両者が連携して、本構想を取りまとめたものである。（詳細な検討経緯ならびに体制については、巻末の「資料」編を参照されたい。）

2．報告書の構成

本報告書は、第 部～第 部及び資料編から成っている。

第 部は、平和政策研究会ワーキンググループ座長の藤原帰一東京大学大学院教授をはじめワーキンググループの学識経験者が執筆して提言としてまとめている。

第 部では、これを受けて具体的な政策や分野別のプロジェクトを検討し、第 部では、海外の紛争終結地域の現地調査を踏まえてモデル的なプロジェクト案を提案している。第 部の骨格は、平和政策推進ネットワーク会議座長である水本和実広島市立大学広島平和研究所助教授の調査報告によっている。

第 部では、これらに基づき平成15年度から着手すべき具体的な事業展開について提案している。